



特集

# 本物が残るからこそ感じるまちの魅力と、まちが人を呼び込む力を創造する

## 「下田市ペリーロード修景活性化計画」への取り組み

### 廣瀬 和さん（旧下田中学校出身）インタビュー

#### プロフィール

平成 27 年（2015）3月に旧下田中学校を卒業後、県立下田高校を経て国立山形大学工学部建築デザイン学科へ進学。日本建築史をテーマとする研究室に所属し、日本海側を中心に多くの日本家屋、歴史的建造物の調査に参加。卒業設計では、ペリーロードの修景をテーマに計画を策定。「JIA（日本建築家協会）東北学生卒業設計コンクール 2022」に大学代表として参加。令和 4 年 4 月より大手ディスプレイ業会社へ就職。商業施設や公共施設、オフィスや展示会などの内装づくりの施工管理を担当。趣味はカレーづくり。

### ◆ なぜ“ペリーロード”をテーマに？

高校卒業後、大学進学を契機に生まれ育った下田を初めて離れましたが、離れたからこそ感じられた点が多々ありました。緑もゆかりもない土地で過ごす初めての1人暮らしでは、いろいろな経験をしました。特に東北地方の雪は大変で、慣れない雪国の生活に苦労し、いかに下田の気候が過ごしやすかったか感じる事ができました。

大学では建築デザインを専攻し、日本建築史を研究する研究室に所属しました。研究室の調査では、日本海側を中心に広い範囲のまちを訪れ、様々な地域の日本家屋や歴史的建造物を見ることができました。

そうした中、卒業に向けた作品設計の題材を考えていたある時、たまたま帰省した折に、ペリーロードを訪れました。大学に進学するまではあまり強く意識したことはなかったのですが、改めて見てみると歴史的建造物が立ち並び、平滑川を中心とした道路の修景舗装との関係性は、空間としてすごく整っていて魅力的に見えました。おそらく、一度地元を離れて各地を見たからこそ感じるこのできた地元の魅力で、それを再認識した瞬間だったと思います。これをきっかけに、下田のペリーロードを対象とした「下田市ペリーロード修景活性化計画」に取り組むことを決めました。

### ◆ 計画のポイントは？

卒業設計に取り組む中で改めてペリーロードを見ると、それまで見えていなかった課題がいろいろと見えてきました。

まず、観光客が多く訪れているものの、地元の人があまり訪れていないこと。また、歴史的建造物の中にも現代的な建物や看板建築もあり、まちとしての一体感に欠ける点がありました。

そこで、大きく3つの柱で計画の概要を設定しました。

#### ① 伝統的建造物の建築様式、建築素材を次世代へ繋げる

地元産材の伊豆石や石蔵を交流拠点として計画しました。

#### ② 暮らす人にとって愛着のある街なみとする

木壁や植栽を用いた外構を採用して通りの修景を行うほか、屋根や外壁の彩度を落とすことで、全体的に落ち着いた統一感のある街なみとし、そこで暮らす人たちの満足度を高めたいと考えました。

### ◆ 下田の未来への思い

下田は何もないところだと言うのが癖になっている印象がありますが、豊かな自然や歴史ある街並みであったり、温かい人々の営みであったり、のんびり流れる時間であったり、物質的なモノではない宝物に溢れているまちだと思います。

恵まれたこのまちの良さに気づかずに、何もないと言ってしまうのはとてももったいないと常々考えていました。

そこで卒業設計では、ペリーロードを舞台に、街並みの歴史や価値を知る→愛着を持つ→まちに誇りを持つ→次世代に繋げていく心を育てる、という流れはどうしたら作れるのかというのを一つのテーマにし、まちの在り方を検討しました。

今下田が持っている宝物の生かし方、どうしたら住んでいる人が面白いと思えるまちになるのか、これからも自分なりに考えていきたいです。



取材後に廣瀬さんの好きな場所で撮影をお願いした時、彼女が選んだのがペリーロードの柳橋のもと。彼女の笑顔に、地元への愛着と、下田の未来が見えた気がしました。



## 下田市ペリーロード 修景活性化計画

山形大学 建築デザイン学科  
日本建築史研究室  
廣瀬 和

### 01 計画の背景

かつての日本では、各地域で自然的条件・社会的条件によって、その場所にはない表情を持った景観やまち並みが形成されていた。しかし現代では、土地の持つ地域性やまちの文脈とは全く無関係に建築行為が行われ、没個性的な景観やまち並みが広がっている。対象地とした静岡県下田市の景観やまち並みも瀕死の状態である。

### 02 敷地概要

静岡県下田市  
太平洋と伊豆半島の山々に囲まれた自然あふれるまちである。安政の大津波からの復興とペリー来航を見越して計画されたまち並みは、伊豆石やなまこ壁を用いた建物が特徴である。

ペリーロード  
ペリーが歩いた道として知られる観光地。かつて花街としても栄えた面影を残す情緒ある建物が現存する。しかし、こうした建物を活かしてきていないのが現状である。

### 03 計画概要

下田のアイデンティティである伝統的建築様式と建築素材を次世代に繋げる

下田の歴史的建造物とその街並みが観光資源としてではなく暮らす人にとって愛着と思い入れのあるものにする

郷土愛を持った住民による活き活きとしたまちの営みが来訪者に魅力的な風景として映り観光面にいい影響を与える

#### 修景

ペリーロードに現存する花街時代の豊かな表情を回復するために周辺建物の修景を行う。

#### 地域交流拠点

下田ならではの暮らしを充実させることを目的とする複合施設。食をメインとするフネテラスと教育・子育て・仕事環境の向上を目的とするカケハシから成る。

#### 伊豆石

全ての計画に伊豆石を用いて全体の景観の統一を図る

### 04 全体計画図



修景 平滑川南岸



修景 平滑川北岸

## 下田市ペリーロード 修景活性化計画

◀ 計画全体・概要



交流拠点施設 カケハシ



交流拠点施設 フネテラス